

2019年9月9日  
株式会社チームゴウモータースポーツ

McLaren Customer Racing Japan

<2019 SUPER GT レースレポート>

第6戦 AUTOPOLIS GT 300 KM RACE

予選：2019年9月7日 予選結果：GT300クラス19位（1分46秒410）

決勝：2019年9月8日 決勝結果：GT300クラス2位

## 19番グリッドからのスタートなるも、GT300クラス2位表彰台を獲得

AUTOBACS SUPER GT 第6戦 AUTOPOLIS GT 300 KM RACEに McLaren 720S GT3、720号車で参戦した McLaren Customer Racing Japan は19番手からのスタートだったものの、62周回でチェッカーを受け、GT300クラス2位表彰台を獲得しました。



決勝日の8日(日)は朝から晴れ間がのぞいていたものの午後には雨予報が出ており、14時30分スタートの決勝レースはタイヤの選択を含めて戦略の決定に難儀しましたが、スタートドライバーはドライタイヤで荒聖治が務めることになりました。

気温27°C、路面温度33°Cの中、決勝は14時30分定刻どおり大分県警察先導のパレードラップからセーフティカー先導のフォーメーションラップを経てスタートしたものの、2周回で最初のセーフティカーが入りました。20周回を終える頃には4.674kmのコース上のところどころで雨がばらつき、1コーナーでは雨足が強く変化する中、荒は24周回目で一度に2台オーバーテイクするなど、32周回まで難しいコンディションの中ドライタイヤのまま徐々に順位を上げながら粘りの走りをみせ、11番手でアレックス・パロウに交代しました。

荒聖治のスティント最後の3周回ほどは、アレックス・パロウのスティントをどのタイヤで送り出すか、荒のアドバイスをもとにしながら幾度となく変更。先行してドライバー交代とタイヤ交代を終えてコースインしていく他チームを見ると、ドライとウェットが入り混じる状況で、増々難しいコンディションになっていました。最終的には荒がピットレーンに入ってきた段階でウェットと決断し、パロウを送り出しました。



荒聖治からステアリングを引き継いだアレックス・パロウは16番手でコースイン。直後に2回目のセーフティカーが導入され38周回目にリスタートとなりました。このタイミングを上手く活かしたパロウは39周回目で一気に5番手まで浮上。その後も40周回目にもオーバーテイクに成功し、4番手につけました。その後3回目のセーフティカー導入があり、パロウはリスタート後の48周回目にはいよいよ表彰台が見える3番手につけましたが、クラストップを走る55号車にドライブスルーペナルティが課せられた為、52周回で前に見えるのは88号車のみとなりました。

路面はどんどんドライになってくる中、ウェットタイヤを履いたアレックス・パロウは何度か積極的にオーバーテイクの機会をうかがい、58周回目にGT500クラスのトラフィックによるタイミングを逃さずに88号車のインからオーバーテイクに成功、クラストップに付け、ピットでモニターを見守るチーム関係者一同を沸き上がらせました。

しかしながらその後、どんどん乾いてくる路面でスピードを上げて猛追してきていたスリックタイヤを履いた60号車に、60周目で1位の座を明け渡す残念な展開となってしまいました。

60号車にオーバーテイクされてから2周回後、アレックス・パロウが駆る720号車は62周回でチェッカーを受け、GT300クラス2位でフィニッシュとなり、初の表彰台、初ドライバーズポイントの獲得となりました。

また、今回のレースでMcLaren Customer Racing Japanのチームメカニックは、SUPER GTに参戦する全チームを対象に、各レースにおいて最も顕著な活躍を見せたメカニックに授与される『ZFアワード』を受賞しました。

### <監督・岡澤優のコメント>

厳しいコンディションの中、荒聖治が戦略をよく理解し粘りのある走りを見せながら、粘って粘って、ピットに入るタイミングを適格に判断し、上手く後半につなげてくれました。また、ピットインは1回で終わらせるつもりで、アレックスのステイントにどのタイヤを選択するか、これも最後の最後にウェットと決断しましたが、アレックスのステイント後半もタイヤがよく性能維持してくれたと思います。19番手スタートということで、多少リスクなことを仕掛けないと上には上がれないと思っていましたので、何か外因的なことで荒れた展開にならないかなと思っていました。

アレックスが2番手につけて、88号車にテールトゥノーズになった時は、彼のウェットコンディションでのパフォーマンスは際立って高いので、どのタイミングで仕掛けるかと思っていましたが、相手がトラフィックに絡んだタイミングを逃さず、若干リスクではあったと思いますが、そこをしっかりと決めてきて、それが彼の強さだと思います。

開幕からなかなか上手く運ばなかったのですが、ドライバーもチームもモチベーションを保ってくれて、この表彰台につながりました。この機運を維持して次の菅生に挑みたいと思います。

以上